

10月というのに残暑が続きエアコンがまだ動いています。

温暖化が心配ですね。

さて今年もインフルエンザワクチンが始まりました。今年
はワクチンの入荷には問題が
なさそうですので、多くの方
の接種が可能です。保護者
の方は窓口で受付、予約なし
でも接種可能です。どうぞお早
目に！

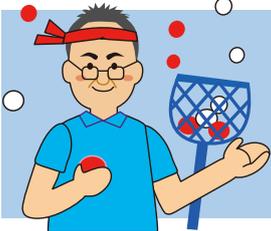
院長 池澤滋

感染症情報 8/21~9/24	前 回	今 回
アデノウイルス	3	13
溶連菌感染症	4	6
感染性胃腸炎	41	63
リンゴ病	1	2
手足口病	11	32
RSウイルス	8	5
突発性発疹	3	4
りんご病	0	2
ヘルパンギーナ	47	35
新型コロナ	0	2
ヒトメタニューモ	5	5
インフルエンザA	18	28
おたふく風邪・インフルB	0	各1



実話
「すべてのクッキー、受け入れます」
Cookieを受け入れるとは「ユーザーの情報をぼろにする(笑)」
許可をお願いします。初めてのクッキーにドキドキしました(笑)

4コマまんが
作・絵
ちえこ&きみこ



- ★クリニック予約
 - ★クリニックホームページ
 - ★いけざわ beauty (インスタ)
 - ★クリニック Instagram
- こちらから → → →



55歳の習い事

「バイオリン習ってみたい」

6歳の長女が車の後部座席から私にそう話したのは御代志のセブンの角を曲がる時。びっくりしたからはっきりと覚えている。だって周りにバイオリンを弾く人はいなかったし当然先生も知らない。

「バイオリンも習いたいって言うんですけど」ピアノの先生にさりげなく伝えると「あら、良い先生知っていますよ！」トントン拍子で話が進み、紹介された先生の自宅に訪問したら次女も習うよう勧められ、2人の娘はバイオリンを習うことに。先生に恵まれ、コンクールに出るほど腕が上がり熊本市民会館で受賞者コンサートの舞台にもたった。

しかしあれから10年以上が経過し、社会人となった娘は全くバイオリンを触らない。

「狭いアパートで練習なんかできないよ」と自宅に置き去りのままの楽器。部屋を掃除しながらそのケースを見るたびに、娘のレッスンに付いて行き一緒に練習を頑張った日々が甦り、費やした時間とお金が脳裏にチラつく。それは自分じゃなく子どもなんだけど。「もったいないな」と。

しかし私はふと思いついてしまった。そうだ、私がバイオリンすればいいんだ！子どもの頃何かひとつ楽器ができたらと思ったこともあったじゃないの！でも大人になってから始めるのってどうなんだろう。しかし知り合いにそのことを話すと、これまたすぐに立派な先生がトントン拍子に見つかりナント2月から私はバイオリンを習っている。練習するのは朝6時。静かで清らかな空気の中弓を持つ。しかしそう簡単には上手いかない。何たって55歳指は固まっているし、右手と左手が上手く連携しないのだ。『まっすぐまっすぐ〜』『弓斜め〜』『手首柔らかく〜』



娘のそばでつきっきりで練習をした日々。

『音ズレてる、あーもっとう』弾けないクセに耳だけ肥えた私。自分で弾きながら、あの日の自分の声が聞こえて来るようだ。あの時、娘にただ「すごいすごい、いいねー」と励みだけを投げかけていたら、今頃娘は医者ではなかったかもしれない。朝の清らかな空気の中流れる私のギョギョバイオリン。夫はコーヒーを飲みながら強制的に聴かされている^^; 何事も基本が大切。ドレミドレミレ...メトロノームに合わせて音符をひたすら追いかける。音階の基礎練習はつまんない。

しかし先ずは音階と娘に言い聞かせてきたのはこの私。テキストは娘が幼稚園に使っていた「初めてのバイオリン」。楽譜のあちこちにメモられた幼い娘のひらがなが私を導く。娘の辿った道のりは決してた易くなかったと気づかされた。

今練習している「ラルゴ」は夕方5時、いつか暮らした街で「5時になりました。皆さん帰りましょう」のアナウンスと共に流れる曲だ。私の出す未熟な音色はまだ言葉を知らない赤ちゃんの鳴き声のよう。

「そうねそうね~かなちかったね~」幼き娘の泣き声に応える夕べ。あれは幻だったのかと思うほど、子育ては遠い記憶だ。そんなことを考えながら今日も私の辿々しい左指は必死に音符を追いかける。懐かしい音色が再び私の生活の中に訪れたことは、子どもと過ごすように賑やかなことであり、嬉しいことであり、切ない子育ての記憶を呼び起こす。いつか「お母さん、上手になったね！」ドアを開け目を丸くして驚く娘の顔を夢見て...

